

日本にブラック・ジャックはいるか？

ブラック・ジャックは理想的な存在だから、彼に近づくことはとても難しい。しかし、私は、日本にもブラック・ジャックに近い先生はいると思っている。あえてそれらの先生のことをブラック・ジャックと呼ばせていただくなら、心臓外科に関して言えば、日本のブラック・ジャック第一号は、亀田総合病院の外山雅章先生だ。

外山先生は、アメリカでプロの心臓外科医としてやっていたこともある心臓外科の名医だ。一九八〇年代には、年間二〇〇例以上の心臓外科手術をしているところは、私を知る限り、国立循環器病センターと東京女子医科大学をのぞくと、亀田総合病院以外にはなかった。その亀田総合病院に来る患者さんは、外山先生が一人で手術をしていた。

亀田総合病院は、千葉県の鴨川市にあるが、外山先生に手術をしてもらいたくて、全国から患者さんが集まっていた。一流大学の大学病院のようなビッグブランドではないのに、外山先生の腕だけで患者さんが集まっていたのだ。まさに、ブラック・ジャック的なものすごい先生である。外山先生のことを思うと、正直言って、私のような人間が、このような本を書かせていただくことがおこがましいと思う。

この亀田総合病院は、西田敏行さん主演の映画「天国までの百マイル」（浅田次郎原作）のモデルにもなった病院である。

日本のブラック・ジャック第二号は、栗山ハートセンター院長の須磨久善先生だ。須磨先生は、NHKの「プロジェクトX」でも取り上げられたように世界的に名高い心臓外科の名医で、パチスタ手術という難しい手術を日本に持ち込んで進化させ、世界的評価を得ている。

この外山雅章先生と須磨久善先生が、世界でも通用するプロの心臓外科医として、日本の心臓外科手術の世界を引っ張ってきた。そういう意味で、このお二人の先生はまさに、ブラック・ジャックに極めて近い医師と言ってもいいのではないかと思う。

そのあとの世代としては、北海道大野病院の道井洋史先生、順天堂大学教授の天野篤先生、豊橋ハートセンターの大川育秀先生、京都大学教授の米田正始先生、金沢大学の渡辺剛先生などがある。その下の世代にもまだ続々と有能な先生たちはいる。

外山先生と須磨先生のDNAのおかげで、日本にもブラック・ジャック的な医者たちが徐々に生まれつつあるように思う。そういう意味では、日本の医療界にもようやく文明の灯がともし、患者さんにも希望が持てる時代が近づいていると思う。